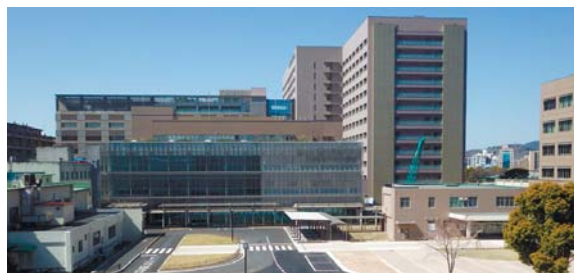


Kumamoto University Campus Master Plan

2015

熊本大学 キャンパス マスタープラン 2015

《ダイジェスト版》



1. キャンパスマスタープランの前提条件

本編 1 章

キャンパスマスタープランは、概ね 10 年を目標に土地利用計画、動線計画、景観計画、インフラストラクチャー計画等を定め、効率的・効果的な整備の実現を目指すものです。

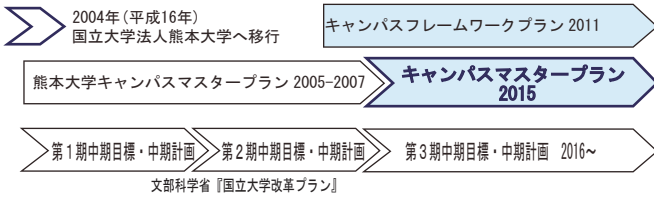


図 1-1 キャンパスマスタープランと国の指針の流れ

熊本大学では、第 2 期中期目標・中期計画の改革期から次のステージへのステップアップを計画的に実行するために、2012年(平成24年)にキャンパスフレームワークプランを策定しました。当キャンパスマスタープランは、このフレームワークプランに基づき、主要5キャンパスについて2005~2007年に策定された旧計画を更新したものです。

フレームワークプランでは、5つの整備方針【FICSS 5】
 (①Flexibility変化への柔軟性/②Identity個性あるキャンパス環境の創造/③Community未来志向の教育研究を創出する交流の促進/④Safety安全・安心な環境の確保/⑤Sustainability持続的な発展可能性)を設定し、ゾーニング、動線計画の基本方針等について定めています。

2. 現状と課題

本編第 2 章

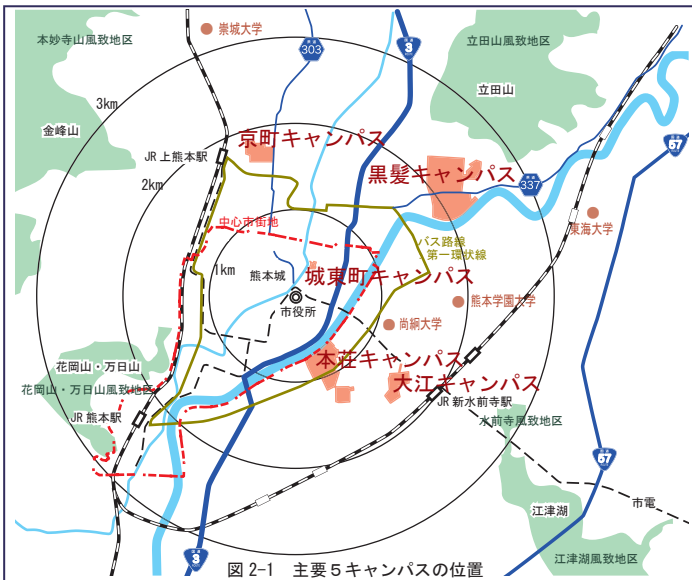


図 2-1 主要5キャンパスの位置

主要5キャンパスは、熊本市内の中心部(市役所)から2km圏内、熊本城や中心市街地の近くに位置します。

黒髪キャンパスは、本学の本部があり、文系・理系及び全学部を対象とした教養教育を実施しているメインキャンパスです。立田山と白川に挟まれた自然豊かな環境のなかに、文学部、教育学部、法学部、理学部、工学部等の部局があります。

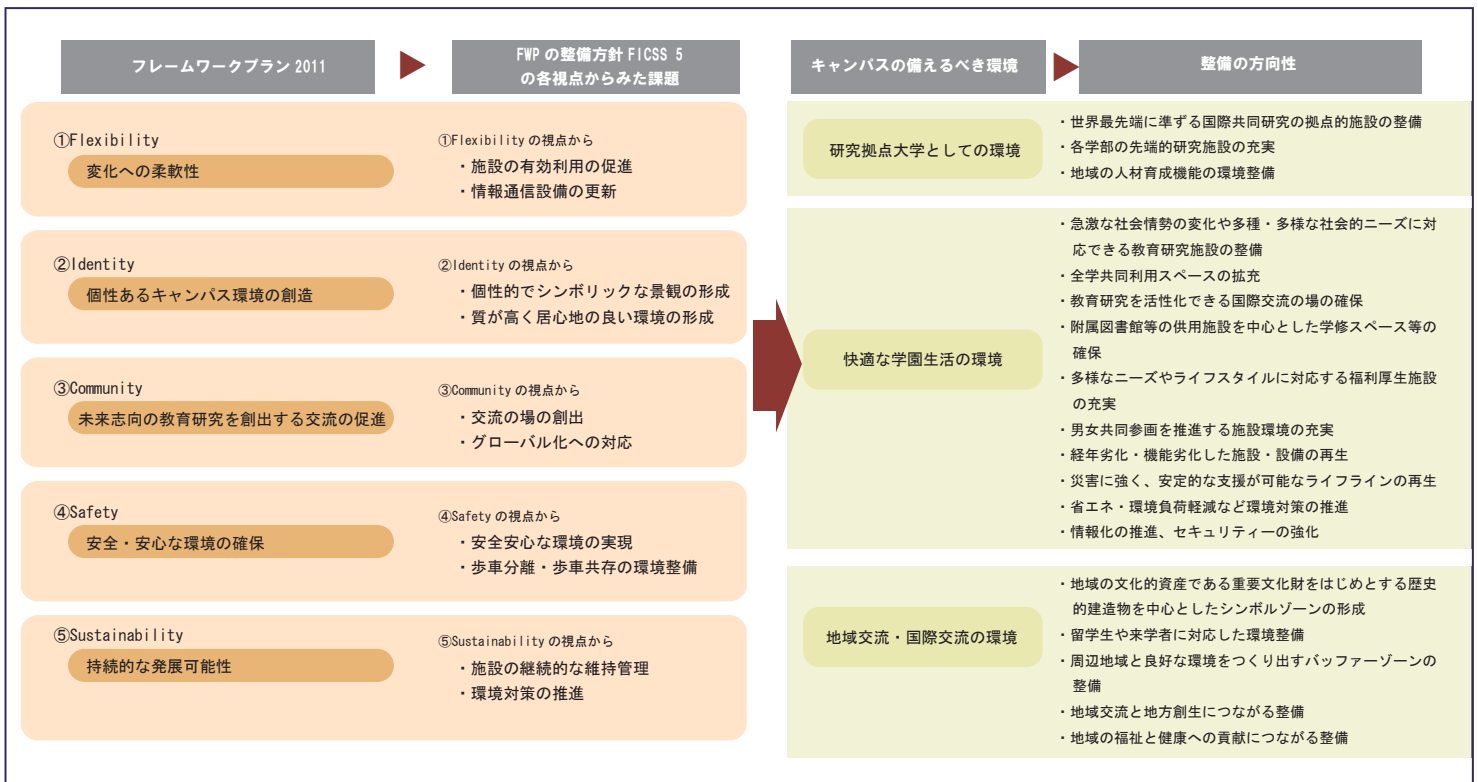
本荘キャンパスは、医学系のキャンパスであり、白川を挟んで熊本市の中心部に隣接しています。医学部附属病院への外来患者等多くの人が出入りし、発生医学研究所や生命科学系のセンターなど、先端的な研究所を擁しています。

大江キャンパスは、薬学系のキャンパスであり、薬用植物園が併設され、キャンパス全体が緑の拠点となっています。

他に、教育学部附属の小中学校、幼稚園のある京町キャンパス、城東町キャンパスがあります。

熊本大学のルーツは、江戸時代・細川藩の医療施設にさかのぼりますが、明治期の『五高』設置以来、都市の発展とともに歩みを続け、『学都熊本』を先導してきました。

本編第 2 章では、各キャンパスごとに施設の現状を把握し、問題点と課題を明らかにしています。



本荘キャンパス



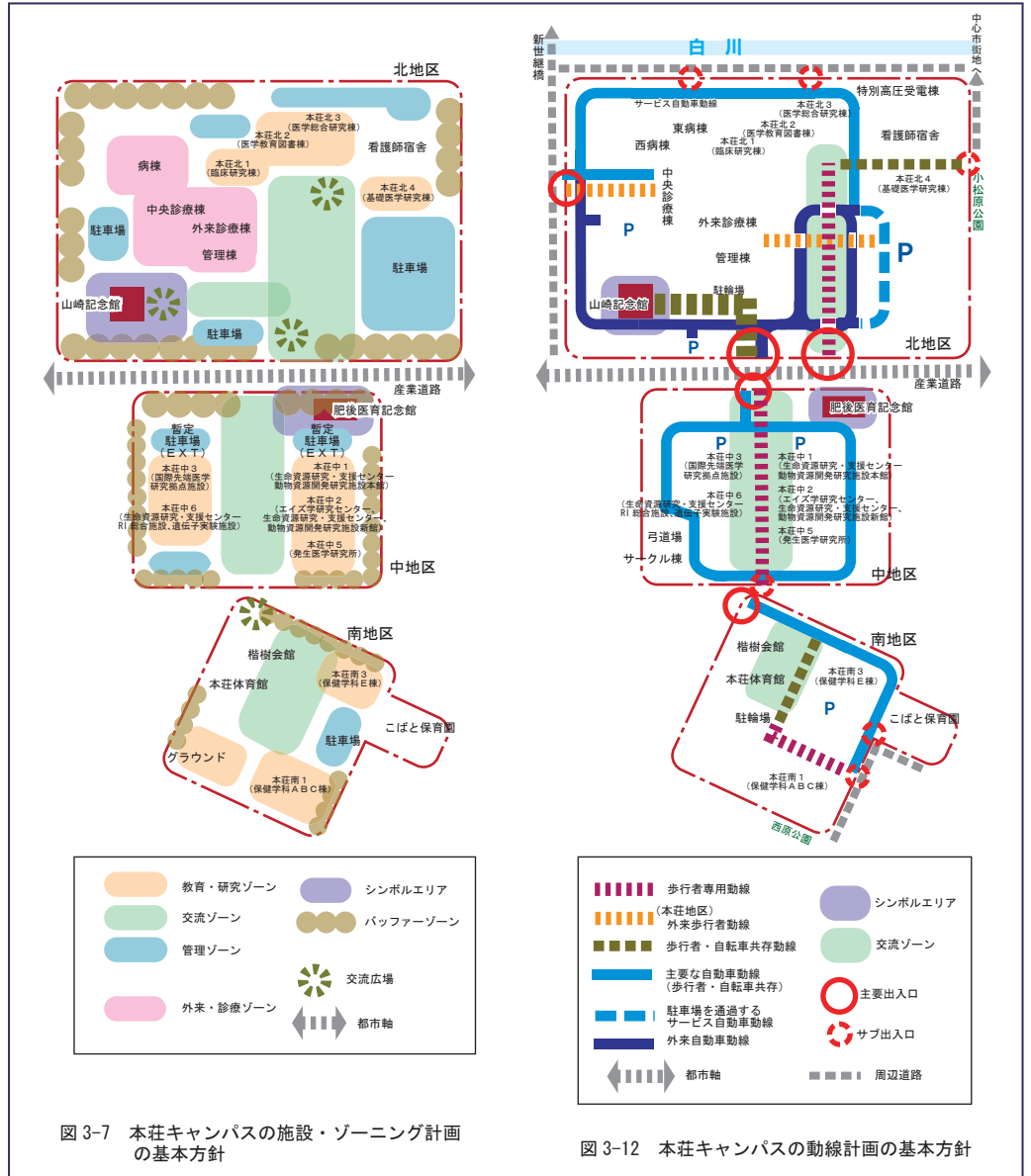
山崎記念館



医学部附属病院病棟



本荘中3（国際先端医学研究拠点施設）



基本目標

黒髪キャンパス同様、研究拠点、快適な学園生活、地域交流・国際交流の環境づくりを目標としますが、特に附属病院のある本キャンパスでは外来患者、入院患者へ「心の通う」病院環境を提供するとともに、時代に対応した医療研究の高度化にフレキシブルに対応した先端医療研究施設の集積を図ります。山崎記念館と肥後育記念館周辺は、細川藩時代から連続と続く熊本の医学の歴史に触れることのできる「シンボルエリア」として本荘キャンパスの”顔づくり”を進めます。

基本方針

各地区に南北の「交流ゾーン」を設定し、歩行者動線の連続化を図ることで北・中・南地区の連続一体化を促進します。自動車動線は各地区とも外周部をループ状に回し、バッファゾーンへのサービスを容易にするとともに、交流ゾーンや研究・教育ゾーン、外来・診療ゾーンへの自動車の乗り入れを規制し、歩行者の安全性・快適性を確保します。

部門別計画

街路樹と一体となって緑の都市軸を形成するよう、産業道路に沿った敷地際の樹木を育成し、白川河川管理道路に沿った緑地は白川の景観整備と調和した樹木の育成を図ります。また、キャンパス周辺の都市公園と調和したエントランス景観を整備します。（景観計画「バッファゾーンの形成」）



図 4-11 黒髪キャンパスの景観計画

大江キャンパス

基本目標

他キャンパス同様、研究拠点、快適な学園生活、地域交流・国際交流の環境づくりを目標としますが、特に本キャンパスでは、キャンパス全体を覆っている薬草と樹木を将来にわたって保護・育成していくとともに、それらに囲まれて薬学の先端的な研究と生命倫理の哲学を培うための充実を図ります。

基本方針

在学生・教員・OB・外部研究者・市民・観光客の交流を促進するために、北門および正門から薬用植物園へのアプローチを交流ゾーンとして設定するとともに、宮本記念館一帯をシンボルエリアと位置づけ、熊本における薬学の歴史を学び未来の生命科学を展望するエリアとなることを目指します。

薬草園（薬用植物園）と宮本記念館を核として、キャンパス全体が地域に開放された「薬草パーク」となるような景観整備を進める。

部門別計画

北門から正門、宮本記念館に至るルートに「景観軸」として路面や植栽を連続させることでキャンパスの景観的統一感を創出します。（景観計画）



宮本記念館

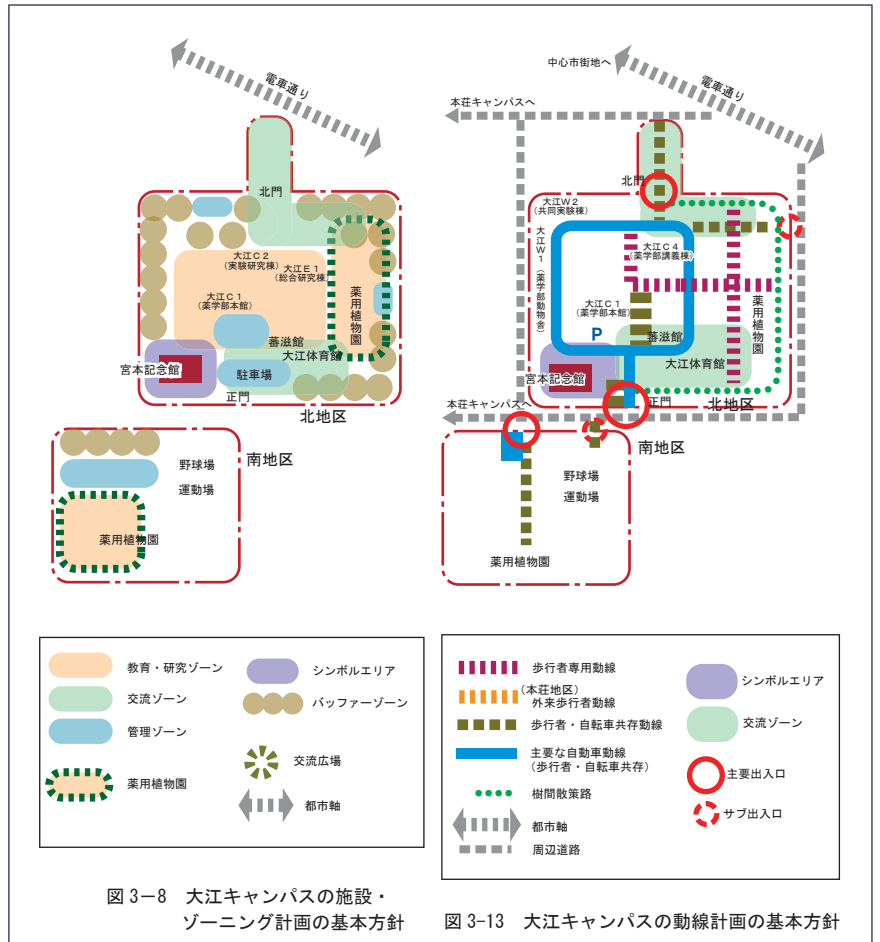


図 3-8 大江キャンパスの施設・ゾーニング計画の基本方針

図 3-13 大江キャンパスの動線計画の基本方針

京町キャンパス

基本目標

教育学部附属小学校・中学校のある京町キャンパスは、初等中等教育の先進的研究と教育実習校という2つの使命を担いながら『未来を担う子供たちのための、健康で伸びやかな環境の創造』を施設整備の目標とします。

基本方針

正門から伸びる構内道路一帯、附属小学校と附属中学校の間のゾーンを交流ゾーンとし、歴史と自然を感じる眺望景観を尊重した敷地計画を進めます。

部門別計画

敷地南東角を中心とした道路沿い、および寺と住宅地が隣接する北側縁辺部をバッファゾーンとして整備します（施設・ゾーニング計画）。

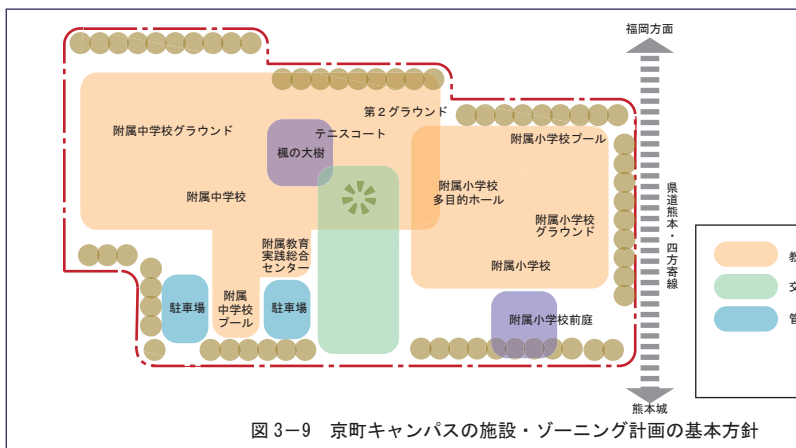


図 3-9 京町キャンパスの施設・ゾーニング計画の基本方針

城東町キャンパス

基本目標

幼稚園教育の先進的研究と教育実習校という2つの使命を担いながら『未来を担う子供たちのための、健康で伸びやかな環境の創造』を施設整備の目標とします。

基本方針

運動場を多目的な交流の場となる交流ゾーンとし、それを取り囲むように幼稚園施設と隣棟間育成園、プール等の教育・研究ゾーンを設定します。

部門別計画

園内各所からシンボル樹木である楠の大樹への視線を確保し園内の一体感を喚起するとともに、熊本城緑地・坪井川の景観と調和した敷地整備を進めます（景観計画）。

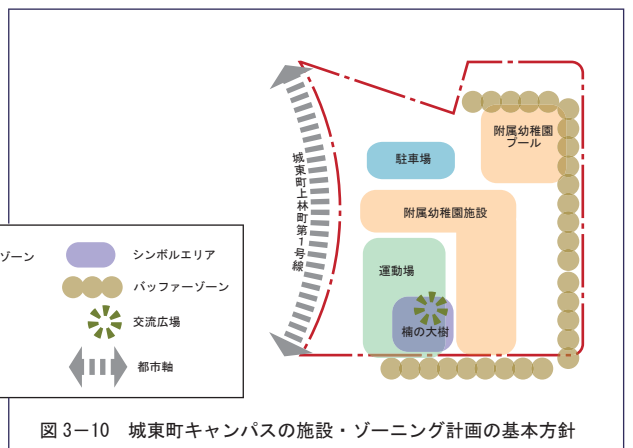


図 3-10 城東町キャンパスの施設・ゾーニング計画の基本方針

5. 実現に向けた取組

本編5章

5章では、実現に向けた取り組みの基本的な考え方を示すとともに、キャンパスごとにステージ計画を立案しています。ステージ計画では、計画期間10年間を概ね3つの期間（ステージ）に分け、ステージごとに整備計画を立案しています。

実現に向けた取組の基本的な考え方

○施設の維持管理

中長期修繕計画等を策定し、継続的かつ計画的維持管理を行います。建築後25年以上経過した施設の未改修建物は、将来にわたり有効に活用する施設と減築の対象とする施設とに判別しながら管理を進めます。

○施設の有効活用

実態調査に基づき、教育研究の質的向上を図ることを目的にスペースの集約化・再配分を図ります。

○省エネルギーの取組

「組織力」「具体的な計画力」「確実な実行力」で省エネ法等によって求められる社会的責任を果たします。

○グローバル化に対応した取組

多言語表記の屋外サイン整備による教育・研究活動の円滑化支援、及び外国人宿泊施設等の拡充による生活環境支援など、本学の目指す国際化推進拠点大学としてのキャンパス環境を整えます。

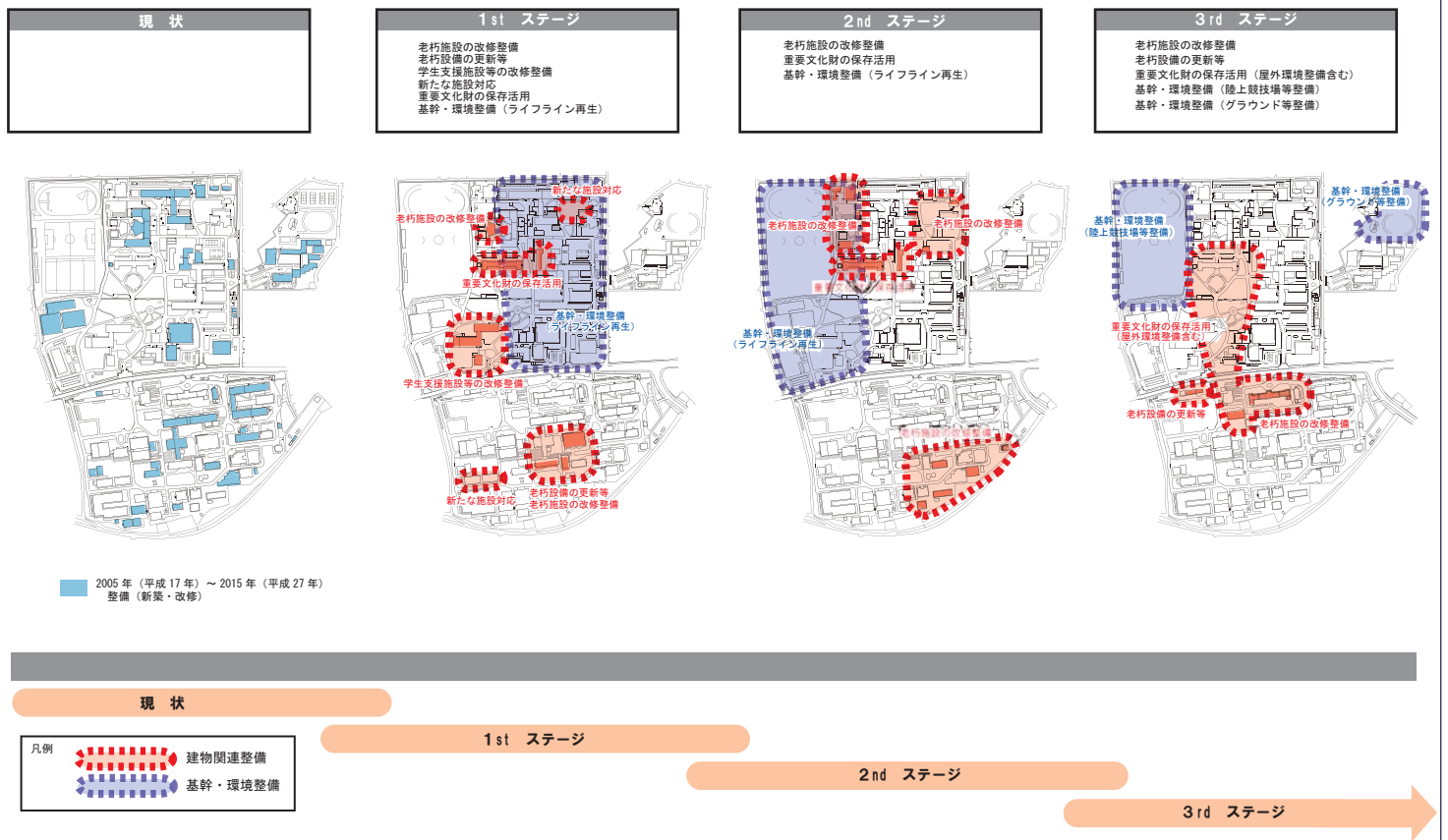
○地方自治体との連携

熊本市との「災害等緊急時における施設使用に関する覚書」に基づき、自然災害や大規模な事故等が発生した場合の一時避難場所や避難所として熊本大学の施設を提供することにしています。

○大学コンソーシアム熊本との連携

一般社団法人大学コンソーシアム熊本は、県内の高等教育機関と熊本県、熊本市が加盟する組織であり、本学学長が理事として教育・研究分野をはじめ5分野21の事業に取り組んでいます。

5-2-1 黒髪キャンパスのステージ計画



創造する森 挑戦する炎

熊本大学キャンパスマスタープラン2015 ダイジェスト版
国立大学法人熊本大学
2016年（平成28年）3月

